

地球温暖化と防災 ～災害のリスク低減のためにできること～

地球温暖化が異常気象の発生につながり、私たちの暮らしは影響を受け始めています。昨年の夏の日本の平均気温が平年より2.36℃高く、統計統計開始以降で最も高くなったほか、毎年のように強い台風や豪雨などの災害が相次いでいます。地球温暖化を食い止め気象災害の激甚化を防ぐことと災害の発生に備えた対策を講じることを、同時に取り組んでいく必要があります。CO₂ネットゼロや防災をこころがけ、できることから実践していきましょう！

どうして地球温暖化が起こっている？

現代以前の気温変化は5000年かけて7℃と緩やかに上昇してきたとされています。これに比べ、現在起きている気温上昇ははるかに急激であり、人為的要因によるものだと考えられています。

太陽から放射された熱エネルギーは、地球の表面を温めます。そして、温められた地表面から熱が赤外線として放出されます。二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスはこの赤外線を吸収する性質を持っており、熱が宇宙に逃れることを防ぎ大気を温めているのです。現在の地球の平均気温は約14℃ですが、温室効果ガスがなければ約-19℃になるといわれています。近年は温室効果ガスが大量に排出された結果、大気中で吸収される熱が増加し、地球温暖化につながっていると考えられています。

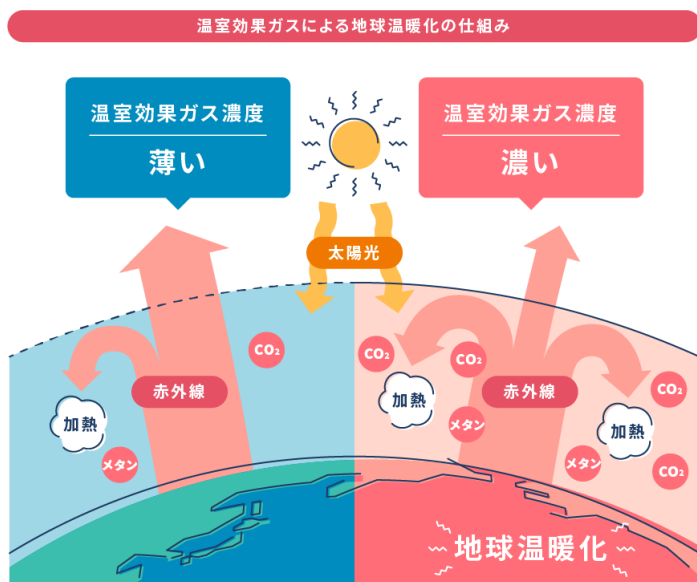
世界の平均気温は上昇傾向にあり、気象庁のデータによると、2025年の世界の平均気温（陸域における地表付近の気温と海面水温の平均）は、1991～2020年の30年間の平均値からみると+0.48℃でした。これは1891年の統計開始以降、3番目に高い値です。さらに長期的に見てみると、100年あたり0.79℃の割合で上昇しており、特に1990年代半ば以降は高温となる年が多くなっています。

このまま地球温暖化が進行したらどうなる？

気候変動により、南極の冬季海水域面積が観測史上最少を記録したり、イギリスやブラジルで最高気温を記録するなど、世界の様々な場所で水環境・水資源、水災害・沿岸、自然生態系、食料、健康や、国民生活・都市生活といった複数の分野に影響が出ています。

日本においても、大雨・短時間豪雨の増加といった気候の変化や、水質変化や渇水の発生といった自然環境の変化、農水産物の収量の変化や洪水・高潮の発生といった自然災害による影響など、自然界にとどまらず人間社会も含め様々な分野に影響をもたらしています。

気候変動への対策には、温室効果ガスの排出量を削減する「緩和」と、すでに生じている、あるいは将来予測される気候変動の影響による被害を回避・軽減させる「適応」の2つがあります。温室効果ガス排出量削減とともに、既にリスクが高まっている気象災害に対してしっかり備えましょう。



環境省「ecojin」より



地球温暖化の防止と災害への備えに取り組もう！

災害に備える行動の中には、CO₂排出量の削減につながるものがあります。

災害対策と温暖化対策のどちらも、普段からの心がけが大切です。できることから取り組みましょう！

減災グッズ

【減災グッズを準備しよう！】

備蓄は最低3日分、できれば7日分準備しておきましょう！

また、メガネ、オムツ、ミルクなど、必要なものは人によって 違います！ペットを飼っている場合、ペットフードやケージの準備もしておきましょう。チェックリストを参考に、必要なグッズを準備しましょう。また、いつでもすぐに持ち出せるように、あらかじめリュックサックに詰めておきましょう。

人と防災未来センター
「減災グッズチェックリスト」

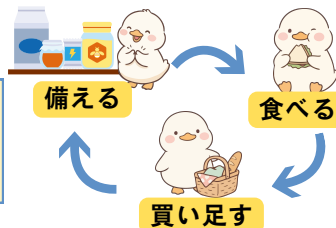


【ローリングストック法を活用しよう！】

普段から少し多めに食材、加工品を購入し、使ったら使った分だけ新しく買い足していく、「ローリングストック法」がおすすめです。常に一定の食品を住宅内に貯蓄することができます。また、災害時は、冷蔵庫の中の食料から使いましょう。

【ローリングストック法】

防災へ備えつつ、食品ロスを防ぎ、CO₂排出量の削減につながります。



省エネ・再エネ住宅の活用

【省エネ・再エネ住宅に住もう】

停電が起きた際に、太陽光発電と蓄電池はいずれも非常用電源として活用できます。

また、断熱がしっかりしていると、停電しても暑さや寒さの影響を受けにくくなります。特に、高齢者や乳幼児を守るための、見えないバリアとして機能することが期待されます。

新築、リフォーム、引越しの機会を活かし、省エネ・再エネ住宅にしましょう。



【設備の操作方法を確認しよう】

太陽光発電設備を設置している方は、「自立運転機能」の操作方法を確認しましょう。「自立運転機能」とは、停電中でも太陽光パネルが発電した電気エネルギーをご家庭内で使えるようにする機能のことです。

また、蓄電池を設置している方は、停電時の使い方を確認しておきましょう。

なお、操作方法是、メーカーや機種によって異なるため、取扱説明書やホームページでチェックしましょう。

太陽光発電協会
「停電時でも電気が使えます」



防災マップ

【防災マップを活用しよう】

防災マップとは、災害の危険性がある箇所や避難所などを地図上に示したマップです。安全に避難するために、日頃から確認しておきましょう。

また、マップに示されている、「避難所」と「避難場所」の違いに注意しましょう。



避難場所

災害直後に一時的に逃げる場所



避難所

災害後に一定期間住民が生活する場所

滋賀県知事公室防災危機管理局
「滋賀県防災情報マップ」



読者キャンペーン

以下のQRコードより、アンケートにご回答いただいた方の中から、抽選で5名様にプレゼント！インテリアやアウトドア、非常時にも活躍する、電池不要のソーラーランタンです。軽くて水に強く、小さく折りたたんで収納できます。エコな灯りをお届けします。

CARRY THE SUNソーラーランタン

【応募締切】▶令和8年4月17日

- 画像はイメージです。
- 色は写真と異なる場合があります。
- 当選発表は、プレゼントの発送に代えさせていただきます。
- 過去にご応募いただいた方も応募が可能です。

1分程度で終わります！ 申込はこちら▶

<https://titzk.graffier.jp/pref-shiga/smart-app/surveys/7788302694403360014>



使用中



充電中



賛同はこちらから▶



滋賀県では、「2050年までにCO₂排出量を実質ゼロ(=CO₂ネットゼロ)にすること」を目指しています。琵琶湖をはじめとする豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐため、一緒に「しがCO₂ネットゼロムーブメント」の取組を進めていきましょう！

活動に賛同いただける方は、左記QRコードから「CO₂ネットゼロ」に向けて行動することの宣言をお願いします。

発行 滋賀県 総合企画部 CO₂ネットゼロ推進課
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号
TEL: 077-528-3494 FAX: 077-528-4808
E-mail: cg00@pref.shiga.lg.jp

編集 滋賀県地球温暖化防止活動推進センター